

# 議員全員協議会会議録

(令和7年1月27日)

愛 南 町 議 会

## 愛南町議会議員全員協議会会議録

本日の会議 令和7年1月27日（月）

招集場所 議場

### 出席議員

議長	佐々木 史仁	副議長	鷹野 正志
議員	尾崎 恵一	議員	嘉喜山 茂
議員	池田 栄次	議員	吉田 茂生
議員	少林 法子	議員	金繁 典子
議員	原田 達也	議員	中野 光博
議員	山下 正敏	議員	那須 芳人
議員	吉村 直城		

### 欠席議員

なし

### 職務のため出席した者

議会事務局長	本多 幸雄	主幹	小松 一恵
--------	-------	----	-------

### 説明のため出席した者

町長	中村 維伯
副町長	木原 荘二
(総務課)	
課長	立花 慶司
(企画財政課)	
課長	清水 雅人
(水産課)	
課長	濱 哲也
(水産課海業推進室)	
室長	浜辺 隆博

### 本日の議員全員協議会に付した案件

#### 【執行部報告】

- 1 一般社団法人U m i d a s（呼称：ウミダス）の設立について

開会 10時46分

閉会 11時07分

○佐々木議長 それでは、令和7年第2回議員全員協議会を開会します。

早速ですが、もう次第に沿って行っていきたいと思います。

執行部の報告1、一般社団法人ウミダス設立について、執行部の説明を求めます。

浜辺海業推進室長。

○浜辺海業推進室長 改めまして、皆さん、よろしく申し上げます。

一般社団法人ウミダスの設立について御説明をさせていただきます。資料を御覧ください。2ページを御用意していますけれども、1ページ目で全て説明したいと考えております。

背景と経緯になりますが、令和5年4月に海業推進室、発足させていただきました。約1年10か月が経過をしておるところです。この中で、おととしの7月から海業推進会議ということで設置をして、25名のステークホルダーの皆さんにいろいろな議論をいただいていたところなんです。

昨年の3月に海業グランドデザインというのを策定させていただきました。で、この中に中間支援組織の立ち上げというプロジェクト、これが記載されておるところなんですけれども、これについて今年度、特に議論を行ってまいりました。その中で、昨年、11月13日、第7回の海業推進会議を開催しましたが、この中で新たな法人の立ち上げと事業開始を目指す方向性、これについて合意と打ち出されて、その翌11月14日の愛媛新聞にも掲載されたところなんです。

で、今般、その議論を進めてきましたが、2月下旬から3月上旬を目途に、一般社団法人ウミダスということで設立する見込みとなりましたので、この場を借りて御報告をさせていただきます。なお、ちょっと私のほうから直接お話ししたいなということで、先週の24日の全員協議会のほうを出張で不在としていましたので、この場を設定させていただいております。改めて感謝申し上げます。

括弧1番、新法人の概要になりますが、名称としましては、申し上げていますように一般社団法人、ローマ字でU m i d a s、呼称としてはウミダスというふうに考えてございます。拠点の事務所については今、調整中でございます。同じく代表者についても調整をしているところでございます。

で、この議論の中で、設立の目的ですとか、理念ですとか、事業の内容、こういったところを議論をしているところなんですけれども、目的としましては、やはり海業を起爆剤とした町の活性化というところ、町の活性化をしながら、長く幸せに生活できる愛南町を実現していくということが大きな目的になってございます。そのための手法として、事業内容がございまして。地域資源の価値・魅力の最大化・商品化、営業販売、情報発信など、このような3つを主な事業の柱として、このウミダスをまず始動させていきなさいというふうに考えてございます。

この参加団体としまして、議論に参画している団体も同じになりますけれども、愛南漁業協同組合さん、久良漁業協同組合さん、愛南町観光協会、愛南町商工会、愛南町ぎょしょく普及推進協議会、マルエムフルーツアイランドさん、南宇和金融協会、そして我々愛南町役場というふうになっております。

このほかにも、業推進会議の委員ですとか、愛媛大学南予水産研究センターですとか、今、石破政權でも言われていますような産官学金老民言、これら皆さんと一緒に議論を進めているところなんです。

設立の時期としましては、令和7年2月下旬から3月上旬、運営体制としては、まずは事務局2名で始めていきなさいというふうに考えてございます。

括弧の2番ですけれども、今後の予定としましては、調整事項を決定いたしまして、司法書士の助けを借りながら法務局への登記手続ということに進んでまいりたいなというふうに考えてございます。

下の参考のところに、これまでの議論の過程というふうに記載しております。この2年については冒頭申し上げたとおりですけれども、11月、愛媛新聞に掲載された後、12月4日に海業中間支援法人設立準備委員会というのを発足いたしましたので、これまでこの準備委員会、本大会としましては2回行っております。で、これの下部というか、この具体的な内容を議論するための作業部会というのを計、今まで5回、またあさって第6回を開くというような形で実施を進めて、議論を加速しているところでございます。

説明、以上になります。

○佐々木議長 説明が終わりました。ただいまより質疑を受けます。質疑ありませんか。  
原田議員。

○原田議員 この新法人の参加団体なんですが、これを見よったら、農業関係はマルエムフルーツアイランドのみが参加ということになっているんですけど、御存じのようにこのマルエムはかんきつの専門農協なんですよ。で、愛南町という、一番かんきつが盛んなんですが、ほかにも野菜、そうして米、米も結構あるわけですよ。で、まあいうたらこの団体の中にですよ、マルエム以外の、いうたらJAえひめ南の南宇和支所なんかも入ってもいいんじゃないかなと思うんですけどね。そこら辺りどう思います。

○佐々木議長 浜辺海業推進室長。

○浜辺海業推進室長 はい、御質問ありがとうございます。

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律という中で、支所が参加することができない、つまりJAえひめ南さんとして入っていただくという形が、定款上、そういうルールになっていますので、ちょっとそこに関して、議論もちろんさせていただいたんですけども、難しかろうというところがあります。

一方で、今後、会員を募集して、この事業に参画していただくようなことは大いに歓迎したいと思っております、この観点で一緒にやれたらなというふうに考えてございます。

以上です。

○原田議員 JAは難しいということなんですが、このマルエムフルーツアイランドも今合併してJAえひめ南なんですよ。そこら辺りいいんですかね。

○浜辺海業推進室長 はい、すいません、御説明が不足していたんですけども、このマルエムフルーツアイランドさん、JAえひめ南の支所になったというのは承知しております。

で、そのマルエムさんの中で、また別な法人、株式会社フルーツアイランドマルエム直販というのを立ち上げられていますので、こちらのほうが参画するというようなことを想定してございます。

以上です。

○佐々木議長 よろしいですか。はい、ほかに質疑ありませんか。

金繁議員。

○金繁議員 今の流れなんですけど、産直市っていうとじゃあ、例えば緑新鮮市とかMICとかっていうところは入ってくるんですかね。まあお野菜とかお米っていうと、そちらのね、たくさん農家さんが加盟していらっしゃるんで、入っていただいたらどうかなと思ったんですけども。

それから、すいません、この一般社団法人を立ち上げた後のお金と人なんですけれども、民間投資を募って、外部所得の獲得をしていくということなんですけど、具体的にはどのような民間投資を、まあ本当、株式会社のように企業とか団体からお金を募ることになるんですかね。愛南町もそこから出すのかも含め教えてください。

それから事務員さん2人で始めるということですが、これは民間の方たち、役場の人ではなくて民間の方たちということになるかと思うんですけど、町内の方で考えていらっしゃるのか、それとも公募なりして、専門知識の豊富な、経験豊富な方を呼んでしようとされて

いますか。それとも両方なのか、お伺いします。

○**浜辺海業推進室長** はい、御質問ありがとうございます。お答えします。

まず、緑新鮮市さん、MICさん、産直市が入るといってお話だったんですけども、産直市として参加していただくというよりは、まずは海業として今までの経緯、議論に参画いただいていたマルエムさんにお声がけをさせていただき、この法人設立の方向性について、それはいいですねということで参加いただいているというところから始まってございます。先ほどの原田議員の御質問にもありましたように、緑新鮮市さん、MICさんが入ってくれるということであれば、これからまた一緒に議論したいなというふうに考えてございます。

で、お金と人に関しての御質問ありました。まず民間投資に関しては、ここに記載している団体以外にも会員さん募集して、まず出資金という形での会費、こういうのも集めていきたいなというふうに思うんですけども、それ以外に、事業を回していくことで収益、もうけということを生じさせていきますので、これを原資にやっていく、で、またさらに、今から申請は考えますけれども、国の補助金、あるいはその他の補助金についても、獲得できるものについては申請をして獲得していくというようなことを考えて運営を、事業計画を立てていきたいなという、まだ今、その段階でございます。

で、事務局の2名に関してですが、これに関しては今、想定が2名というところになりますので、これは2名確実に雇えるかというところも含めての議論はしなければいけないなと思いますけれども、外部の人間2名だけでは当然成り行かないというふうに思っていますので、町内からの登用というのを基本に考えていきたいなというふうに考えてございます。

○**佐々木議長** 金繁議員。

○**金繁議員** 今のお金のことなんですけど、クラウドファンディングとかふるさと納税でね、こういう事業をするのでって、自治体自体がとか、自治体に関連する公的な事業についてクラウドファンディング、ふるさと納税されていると思いますが、その辺についてもお考えですか。まあぜひやったらどうかと思うんですけど。

○**佐々木議長** 浜辺海業推進室長。

○**浜辺海業推進室長** はい、お答えします。

手段の一つとしては当然考えていきたいなというふうには思います。

○**佐々木議長** ほかに質疑ありませんか。

鷹野副議長。

○**鷹野副議長** この考え方とすれば、すごくいいなというふうに、今後の海業、愛南町の海業の発展うか、発達したらすごくいい企画案やなというふうに思うんですが、最終目的ですよ。例えばこういうふうな会議で6次産業化やないけれど、商品開発しますと、そしたらそれをどのように具体化するとか、そういうこのウミダスの最終目的うか、ブルー・ツーリズムとして観光とつなげるとか、ちょっとこう、まあ今からのことなんでしょうけど、最終目的うか、どういうことをお考えですか。

○**佐々木議長** 浜辺海業推進室長。

○**浜辺海業推進室長** はい、お答えします。

最終目的、まさに定款に目的等を記載しなければならないですので、その定款の内容については、2軸記載をしようというふうに考えてございます。

で、冒頭お話ししたようなその地域の活性化と、あと長く幸せに生活できる愛南町の実現というのが大目標になってはくるんですけども、そのときの手段としましても目的に記載をしようと思っていまして、外から来た人には町のおもてなしをこうお届けし、で、それをやる町内の皆さんがこう楽しく活躍できるような、そんな舞台にしていきたいと思いますというように目的に記載をしようというふうに考えてございます。

○**佐々木議長** よろしいですか。

金繁議員。

○金繁議員 すいません、たくさん聞いて。もうこれ、いろんな分野の方たちが、業者さんたち関係して、本当に調整能力とかすごく高い調整能力も必要だし、それからね、東京や都会とのつながり持っている方でマーケティングとかいろんな知識や経験が必要になる方が必要だと思うんですね。

町内からお2人ということなんですけども、やはりそういう、事務員さんとしては町内の方だとしても、そういう何というか、関わってくださる方が必要なんじゃないかなという気がしているんですけど、その点についてはいかがかなというのと、もう一点は、拠点の場所がまだ決まっていないんですけど、ぜひね、ど真ん中のいいところに造っていただけたらと思うんですが、今、観光協会がちょっとかわいそうな状態にあって、町長ね、観光に力入れるとおっしゃっていたんで考えていらっしゃると思うんですが、ぜひその返答も、一緒にいいところを造ってあげて、造ってあげるというか確保してあげてほしいなと思うんですけど、いかがでしょうか。

○佐々木議長 浜辺海業推進室長。

○浜辺海業推進室長 はい、お答えします。

町内の人の関わりというところについては、もちろん大いにその町内の皆さんこう巻き込んで、そのおもてなしといっても、我々だけでは当然できませんので、事業者さんのところに行って、その事業をこう体験していただくような、そういったブルー・ツーリズムという話もありましたけど、グリーン・ツーリズムとか、そういったような観点も活用しながら全員で取り組んでいくという姿を思い描いてございます。

で、そういった人材を、何ていうんですかね、人材にこうどんどんこう逆にこう関わっていただいて、で、就職していただいてというような、そういった好循環が描ければなというふうに思います。

もう一つ、拠点についてですけれども、まず法人事務所を立ち上げる、2月、3月ということであれば、まずは仮の拠点を設置した上で、本拠点については今後の議論を進めていくということだというふうに考えています。町の中心部、ぜひそういった皆さんが来られるような場所、できたらいいなと思いますので、その議論についても加速させていきたいなというふうに思います。

以上です。

○佐々木議長 金繁議員。

○金繁議員 ありがとうございます。頑張ってください。

で、ちょっと一つ提案なんですけど、たしか何かどっか視察に行かれていましたよね、みんなだね。で、私この前、上勝町を視察してきたんですけども、やはり町長のイニシアチブで20年間やってきたんですが、もういろんな民間企業、もう都会のね、東京とか県外から、人も、そしてお金もどんどん呼び込んで、いろんな法人もできているんですけども、例えば授業料無料の高専ができていて、それは1企業1億円、11社が寄附して下さって造っているんですね。で、それは元々、その上勝でお世話になった子供を持つ親御さんが、大企業の医療関係の社長さんが役員さんで、子供がお世話になったからという関係でそういう話を持ってこられて、どんどんと発展していると。まあそれだけじゃないです、もういろんな事業が進んでいるんですけど、ぜひそういうこうネットワークというか、広がりを持つという視点からは、上勝町ってすごく勉強になるんじゃないかなと思って、余計なことかもしれませんが、情報として申し上げます。

○佐々木議長 浜辺海業推進室長。

○浜辺海業推進室長 はい。非常に貴重なお話、ありがとうございます。

上勝町、僕、行ったことがないんですけども、話としてはよく知っていて、そういった

好事例も参考にしながら取り組んでいきたいなというふうに思います。

上勝町もそうですし、視察に訪問した大分の、すいません、岩手県の大槌町ですとか、田野畑村もそうだったんですけども、やはり最初は町の関与というところが非常に大きい部分もありまして、そういったところこう両者連携しながら進めていくというのが必要な姿かなと思います。

そういった部分も含めて検討したいと思いますし、あと、言われた、関わった人が投資をしてくれる好循環、これに関しても、まさに24日の石破総理の施政方針演説でも関係人口という言葉が使われて、御説明されていました。この関係人口の創出についても、移住・定住も含めてですが、ウミダスの事業内容として取り組んでいきたいなというふうに思っています。

以上です。

○佐々木議長 吉村議員。

○吉村議員 長くなっていますけども、一点だけ、非常に結構なことなんですけども、ちょっと、室長のこれ置き土産になるんですか。それとも、一つだけ心配なのがそれなんです。出向で御承知のとおり来られて、ほいで、もう熱心なのはもう重々分かっているんですけども、その辺は、立ち上げと合わせて、一点だけ。

○佐々木議長 中村町長。

○中村町長 その件につきましては、私からお答えさせていただきます。

置き土産になるかどうかは現時点ではちょっとまだ人事の内容出ておりませんので、それはもうお答えすることはできません。ただ、水産庁とは非常によい関係を持ってずっとやり取りをしておりますので、愛南町がこの取組、ゼロから1を生み出す取組をすることについて、水産庁自体も非常にバックアップしていただいておりますので、そういう関係の中で今後、進めていくことができると考えております。

以上です。

○佐々木議長 吉村議員。

○吉村議員 まあ町長がそこまで言うんですから、まあ事業系を歩いてこられているんで、その辺はもう結構です。もう期待しております。

○佐々木議長 答えを要りませんね。ほかに質疑ありませんか。

ほかに質疑がないようなので、これで執行部の報告を終わります。

以上をもちまして、令和7年第2回議員全員協議会を閉会します。

議長